
転生して異世界廻り ~ FAIRY TAIL 編

黎白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生して異世界廻り〜FAIRY TAIL編

【Nコード】

N2247BA

【作者名】

黎白

【あらすじ】

転生して異世界廻りシリーズの第二作目。D・C・?の世界の後に、フェアリーテイルの世界へ行った蒼影の話。

原作崩壊やハーレム、チートあります。

更新は不定期になります。

プロローグ（前書き）

楽しんでもらえたら嬉しいです。感想やメッセージお待ちしております。

プロローグ

ここは……。こんな空間一度しか見た事ないし、一度みたら忘れられないって。

俺が転生する時に来た場所だ。という事は……。ああ、そうだ。俺は死んだんだったな。しかも事故で即死。力でも使えば良かったのに、そんな事考える前に体が動いてしまった。

今回は特典の意味なく一人かなあ。俺が死んだのは30歳くらいだし、みんなまだ綺麗でモテてたからなあ。他に好きな人くらい出るだろうしな。

俺は結局一人を選ぶなんて出来なかった。みんなはそれを認めてくれたし、初めは社会的には駄目だったが、途中から一夫多妻になったんだよな。

そいえば、みんな幸せだったのかな？まあ済んだ事だし、次の世界に行くとするか。

そいえばまた転生だけど、夕紀のやつ呼べば出てくるか？

すうー

「おい！夕紀いー！」

ドカツ

「叫ばなくても分かるわ！」

「痛い……。殴らなくてもいいだろうが。」

いきなり現れた夕紀に頭を思いつきり殴られてしまった。夕紀は女だけど、神様が訳でハンパなく痛かった。

「まあいいけどさ。で、早速次の世界に行きたいんだけど、どうしたら良いんだ？」

「まあ、少し待て。人を待たないといけないからな。」

こんな所に来れるのなんで、神様くらいじゃないのか？それが、俺と同じ転生者か。

「人って誰なんだ？」

「

「後での楽しみだ。別にお前にとって悪い事ではないから、安心していいぞ。」

「ならいいけどさ。」

俺にとって悪い事じゃないって事は、やっぱり別の神様とかか？

他の転生者は悪い事ではないけど、時には悪い事になりそうだし。

まあ、後で分かるんだしいいか。

なら、次に行く世界でも考えておくか。ゴッドイーターもいいし、スタードライバーとかもいいかもしれないな。フェアリーテイルも

悪くないな。

D・C・？の世界では基本平和だから、力を使う事なんか滅多になかったしな。

まあ平和が一番なんだけど、折角ならちゃんと使ってやりたいしな。いろいろ作ったのはいいけど、結局使えなかったりしたからな。まあ転生の時に貰ったやつを別荘代わりにして、息抜きとかと一緒に試したりはしたけどな。

「ん、やつと来たみたいだぞ。」

「やつと来たのか？結構遅かったな。」

「いろいろやる事があったんだろう。お前の後ろにいるぞ。」

なんで待たされたのかや、誰に待たされたのかも知りたいし、夕紀に言われて後ろを向くと、そこにはD・C・？の世界でこんな俺を愛してくれて、俺が愛した人達が全員いた。

一つ違うのは、最後に見た大人の姿ではなく、学園生活を楽しんでいた時の姿だった。

どうしてここに……。浮かぶのはただそれだけだった。

「どうしてって、お前が望んだ事だろうが。もう忘れたのか。」

「でも、あれは……。」

あれは最終的に愛し合っていたらであつた。もしそうなら、俺が死んだ後も……。

「そうだったの。全員がお前が死んだ後も想い続けたんだよ。正直驚いたぞ。」

「どうして……。」

「そんな事決まってるよ、蒼影君。ボク達は、蒼影君以外愛したりしないよ。」

みんなを代表してか、さくらがそう言う。その言葉にみんなが頷いている。

嬉しい……。ただそれだけだ。

みんなには俺を忘れて、幸せになつてもらいたいと思つたけど、心のどこかで一緒に居たい。他の人に渡したくない。そう思っていた。醜い独占欲だけだな。

「さて、説明は全員聞いてるだろうが、どうする？このまま記憶を無くし転生、まあ普通の状態だな、それが蒼影と一緒に生きて行くか。」

「そんなの決まってるさ！ナツミ達は、リュウツチと一緒に生きるさ！」

「だが、いいのか？中には、人を殺さなければいけない世界もある。」

そうだ……。俺は途中夕紀に呼ばれ覚悟を決めた。でもみんなはそうじゃない。普通に暮らしていたんだ。人を殺すなんて出来るはずがない。

一度別荘を使い、みんなを試した事があった。その時はみんな吐いていた。その時人を殺す俺の姿を見ても、俺の事は嫌いになつてなかったが、殺すなんて別問題だ。

「そんな覚悟してるわよ。あたし達は蒼影と生きるんだから。」

まゆき先輩……。

「…………、その覚悟本物みたいだな。心から覚悟しているし、それならいい。」

「少し待ってくれ。」

ついて来てくれるのは、嬉しいけど。

「それでいいのか？ 実際、別の世界ではあまり全員で過ごしたり出来ないぞ。そりゃ別荘あるし時間は短いけどさ。」

そう、一度に過ごすのは二、三人。多くても、六人だ。

「別にいいですよ。蒼影なら、平等にしてくれるっすから。」

「そうですよ。影兄はなんだかんだで時間取ってくれますから。」

「そりゃ、出来る限りはするさ。」

「なら、ボク達は大丈夫だよ、蒼影。」

はは、恥ずかしいけど泣きそうだ。いろいろと力を作った中に、嘘に敏感になるのとかあるから、本当に愛されてるのが分かる。

「さて、話はまとまっただみたいだな。」

「ああ、悪いな。」

「別にいいさ。ああ、次の世界だが悪いが決まってるから。」

「どうしてだ？」

「イレギュラーだよ。フェアリーテイルの世界に行ってもらっ。」

「みんなは大丈夫なのか？」

みんなは魔法なんて知らないだろうし、力もない。俺があげれるんだろうけど。

「大丈夫だ。知識は与えるし、ちゃんと力も与えるからな。足りなかったら、蒼影が与えたらいい。」

「わかった。」

「そうそう、藍、まひる、美夏、美秋に関しては人間の体を与えてるからな。」

「そこまでしてくれたのか。ありがとう。」

これでまひるに藍、美夏に美秋は人間と同じか。よかったな。

「気にするな。後は……、誰を連れて行く？」

誰をかか……。二、三人くらいがいいか。なら……学園生活でイタズラとかでも罨とか凄かったし、鈴花とそれを回避してたまゆき先輩か。後は、ナツミかな？

「そうだな。ナツミ、鈴花、まゆき先輩、お願いしていいか？」

「おつ、あたし？もちろん、いいよ。」

「わかったのさ！」

「了解つす。」

「まあ、たまには変わって貰うけどな。」

「なら送るぞ。力は、知識として入るから。後は、離れても念話みたいのが出来るアイテムつけてやるよ。」

「ありがとうな、夕紀。みんなも本当にありがとうな。」

みんな笑っていた。フェアリーテイルの世界でも、幸せに出来ればいいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2247ba/>

転生して異世界廻り～FAIRY TAIL編

2012年1月5日18時46分発行